

## 【平成 23 年度】

特殊なゲノムコピー数異常を呈した 5 症例について分析した。

症例 1 は自閉症における染色体異常としては頻度が高いといわれる 15q11-q13 の領域の重複であった。15q11-13 重複症候群 [MIM#608636] として、自閉症との関連が注目されている。この領域は、プラダー・ウィリ症候群ないしアンジェルマン症候群で欠失する領域である。自閉症の 1～3% で、母親由来の同領域が重複するか、過剰なマーカー染色体として存在する場合がある。非同相染色体組み換えが原因と考えられている。自閉症以外に精神運動発達遅滞、失調、てんかんを伴う。色素沈着は重複領域に存在する P 遺伝子の遺伝子量効果と考えられる。欠失するプラダー・ウィリ様やアンジェルマン症候群が低色素となること対極をなしている。自閉症と知的障害を伴い、全身の色素沈着を伴う場合はプラダー・ウィリ症候群あるいはアンジェルマン症候群のプローブを用いて FISH 検査を行うことが診断に有用と思われる。

症例 2 にみられた、16p11.2 欠失症候群

[MIM#611913] は、精神運動発達遅滞、認知機能障害、自閉症、注意欠陥多動症、てんかん、肥満などと関連することが知られている。特徴的顔貌、頭囲大を示す場合もある。脊椎や肋骨奇形、先天性横隔膜ヘルニアなどの先天奇形もしばしば認める。

通常の染色体検査では異常は同定できず、マイクロアレイ解析で 593kb のほぼ共通した領域の欠失が認められる。多数例の集団における解析で、自閉症の 1% 程度で出現する CNV である。表現型は非常に多彩で、親にも児と同じ欠失を同定することがあり、親は軽い発達遅滞ないし全く正常のこともある。症例 2 は肥満を合併したが、同じ欠失を持つ母親には自閉症状はなかった。このような例では結果の解釈に慎重な配慮を要する。遺伝カウンセリングを時間をかけて実施した。なお、16p11.2 欠失症候群では肥満の合併が多く、自験例も高度肥満を認めた。自閉症と肥満を合併する場合、16p11.2 欠失症候群を鑑別診断に置くことは重要である。

症例 3 は最近報告された新規症候群の 16p11.2-12.2 欠失症候群 [MIM#613604] であ

った。16p11.2 欠失症候群よりもややテロメア側の欠失であり、Ballif ら (2007) が報告した。16p11.2-12.2 欠失症候群は平坦な顔面、前頭部突出、眼瞼裂斜下、内眼角贅皮、耳介低位、眼の位置が奥まっている、などの特徴的顔貌に加え、哺乳・摂食障害、乳児期の筋緊張低下、低身長、特に言語発達を中心とする精神運動発達遅滞を認める。感染症、特に中耳炎を繰り返すことが多く、滲出性中耳炎になりやすい。一部の症例は先天性心疾患や胃食道逆流症を伴う。

症例 4 は 16p11.2-12.2 欠失症候群とほぼ同じ領域の重複であった。この重複はまだ疾患単位としては確立していないが、頭囲大などの特徴を有し、今後同様の報告がみられる可能性がある。16 番染色体短腕のこの領域には多くの分節的重複領域が存在し、構造異常が生じやすいようである。

症例 5 は *CADPS2* のハプロ不全であった。*CADPS2* 遺伝子を欠損したマウスの報告では、神経栄養因子の一つであり神経回路形成や記憶・学習機能を調節する脳由来神経栄養因子 (BDNF) の分泌が著しく減少していたという。そのため、*CADPS2* が BDNF 分泌に

おいて重要と考えられた。このマウスは、自閉症に見られる特徴をもった行動異常を示していた。自閉症患者の *CADPS2* 遺伝子の発現パターンを健常者と比較すると、一部の患者では *CADPS2* の mRNA に、異常な「選択的スプライシング」がみられた。異常な mRNA から翻訳される欠損型 *CADPS2* は、神経軸索へ輸送されない。欠損型 *CADPS2* の発現によって BDNF の局所的分泌が障害され、神経ネットワークの形成異常につながる可能性がある。本例は *CADPS2* のハプロ不全が発達に影響する可能性を世界で初めて示唆することができた。

一部の自閉症では特徴的な身体所見や合併症を認める場合があり、鑑別診断に重要である。

#### 【平成 24 年度】

16 番染色体短腕は繰り返し配列が集積し、非アリル性相同組み替え non-allelic homologous recombination : NAHR) が生じやすい領域である。

先述したように 16p11.2 欠失症候群は自閉症、注意欠陥多動症、てんかん、肥満な

どと関連する。特徴的顔貌、頭囲大を示す場合もある。593kb のほぼ共通した領域の欠失が認められる。欧米では多数例の自閉症患者を対象としたマイクロアレイ解析で多数例が報告されている。自閉症の1%程度で出現するとい報告が複数存在する。しかし、軽度遅滞ないし無症状の親も児と同じ欠失を持つことがある。16p11.2 重複も発達正常な例が存在する。

16p12.2-11.2 重複症候群はまだ疾患単位としては確立していないが、先述した16p12.2-11.2 欠失症候群の領域の重複による疾患である。平成 23 年度に報告以降、徐々に症例は増えている。軽度から重度の知的障害、自閉症、低身長、特徴的顔貌、指趾異常などを特徴とする。過去に報告された数例の検討では、顔貌においては共通した異常は認められておらず、身体所見から本症候群を疑うことは困難である。16p12.2-11.2 欠失症候群は精神運動発達遅滞を特徴とするが、自閉症状は報告されていない。これに対して16p12.2-11.2 重複症候群は自閉症を特徴とする。自閉症を対象にしたマイクロアレイ解析で症例が増加す

る可能性がある。

16p13.11 欠失症候群は知的障害、自閉症、統合失調症、てんかん、注意欠陥多動症などの発達障害や精神疾患と関連が知られている。多数例のマイクロアレイ解析により、16p13.11 重複も知的障害や自閉症、てんかんの症例の中に見いだされている。しかし、自験例のように無症状の親や同胞にも重複が見いだされることが知られている。家系内で共通のゲノムコピー数の変化を持ちながら、症状が不一致である現象は先述した16p11.2 欠失や16p11.2 重複などでも知られている。16p12.1 欠失や16p12.1 重複の場合、この単独の欠失や重複だけでは発症せず、他の領域のコピー数変化が加わることで発達遅滞が顕著になるという、「two hit theory」が提唱されている。児と親にマイクロアレイで同じ CNV が存在するが、児にのみ症状を認める場合、児にはマイクロアレイで検出できない別の遺伝子変異が生じている可能性がある。

マイクロアレイ染色体検査は異常の検出率が高い反面、その結果の解釈においては注意が必要である。

## E. 結論

3年間にわたって、多数の自閉症症例のマイクロアレイ染色体検査を実施した。22q13欠失症候群や15q11-13重複症候群、16p11.2欠失症候群など自閉症の中では比較的頻度の高い染色体異常症を経験した。一方、稀な疾患も経験した。今後さらに新規症候群を同定できる可能性もある。

自閉症の診療においてマイクロアレイ染色体検査は重要であり、従来の方法では原因不明であった症例においても正確に原因を解明できる機会が増えた。自閉症の原因は多様性に富み、マイクロアレイのような全ゲノムを対象にした解析が一時的には有用と思われる。ただし、親にも同じコピー数異常を認める場合がある。単独の欠失や重複だけでは発症せず、他の領域のコピー数変化が加わることで発達遅滞が顕著になるという、「two hit theory」も提唱されている。環境要因による影響もある。マイクロアレイ染色体検査の結果の解釈は慎重に行う必要がある。実施前後の慎重な遺伝カウンセリングが重要である。

## F. 健康危険情報

特になし。

## G. 論文発表

1) Waga C, Okamoto N, Ondo Y, Fukumura-Kato R, Goto Y, Kohsaka S, Uchino S. Novel variants of the SHANK3 gene in Japanese autistic patients with severe delayed speech development. *Psychiatr Genet.* 2011;21:208-11.

2) Okamoto N, Hatsukawa Y, Shimojima K, Yamamoto T. Submicroscopic deletion in 7q31 encompassing CADPS2 and TSPAN12 in a child with autism spectrum disorder and PHPV. *Am J Med Genet A.* 2011;155:1568-73.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）  
総合研究報告書

超細密染色体分析から捉え直すヒト発達障害研究

分担研究課題

平成 22-24 年度：広汎性発達障害関連遺伝子による病態解明研究

研究分担者 橋本 亮太

大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所  
附属子どものこころの分子統御機構研究センター 准教授

研究要旨

広汎性発達障害は、自閉性障害やアスペルガー障害などの自閉症スペクトラム障害を指し、環境因子と遺伝因子による多因子疾患と考えられている。広汎性発達障害の一卵性双生児の一致率は60～90%、遺伝率が90%とされており、統合失調症などの他の精神疾患と比較して、遺伝因子の関与が非常に大きい。今までに、いくつかの遺伝子が広汎性発達障害の原因遺伝子として報告されている。本研究では、広汎性発達障害関連遺伝子の発現レベルを35例の広汎性発達障害群と健常者群とその対照として45例の統合失調症群と健常者群の不死化リンパ芽球において測定した。その結果、SHANK3とNLG3の発現レベルが広汎性発達障害のみにおいて低かった。よって疾患特異性があることが想定される。これらの二つの遺伝子のmutationはloss of functionであるため、孤発例の広汎性発達障害においても発現が低下していることは、意義深いと思われる。最近、広汎性発達障害において、De novo(新規)のCNV (copy number variation:コピー数変異) が、その原因となっていることが報告されている。そこで、広汎性発達障害患者19例について、De novoのCNVの検討を行った。広汎性発達障害患者19例中、13例においてCNVを同定した。次に両親のゲノムサンプルも用いてde novoの検証を行ったところ、2例においてde novoのCNVであることが確認された。これらのde novoのCNVはどちらも2q13にある重複であった。少ない数における検討であるが、日本人において新規のde novo CNVを同定することができた。このCNVの病的意義については、今後の検討を必要とするが、広汎性発達障害の病態の解明に役立つ知見であると考えられる。

A. 研究目的

広汎性発達障害は、自閉性障害やアスペルガー障害などの自閉症スペクトラム障害を指し、環境因子と遺伝因子による多因子疾患と考えられている。広汎性発達障害の一卵性双生児の一致率は60～90%、遺伝率が90%とされており、統合失調症などの他の精神疾患と比較して、遺伝因子の関与が非常に大きい。

広汎性発達障害の家系研究より、いくつかの候補遺伝子が見出されている。neuroligin3/4(NLG3/4)遺伝子もその一つである。このうちNLG3(Arg451Cys)遺伝子の変異はNLGN3タンパク質のプロセッシングを障害することが知られている。また、NLGN4遺伝子の1186insT変異はアミノ酸が欠損した未熟なNLGN4遺伝子を作る。Neuroliginは、興奮性シナプスであるグルタミン酸や、抑制性のGABA系シナプスを編成する上で必須の、後シナプスに存在する細胞接着分子とシナプス前 $\beta$ -neurexin(NRXN)と結合し、軸索と連絡する際の機能的な前シナプス構造を形成する契機となる。

neurexin1(NRXN1)遺伝子の変異も広汎性発達障害患者から発見された。さらに、新規のコピー数多型解析により広汎性発達障害患者のNRXN1-containing遺伝子の領域に欠失が認められた。NRXN1とNLGNの結合体はシナプスを発達させる。また、NLGN3遺伝子の変異はNRXNとの結合を阻害する。NLGNは、同じく広汎性発達障害と関連するSHANK3と結合する。SHANKタンパク質は、シナプス形成と樹状突起の成熟に関与する。SHANK3遺伝子を含む遺伝子部位の欠失・転座やSHANK3遺伝子の新規の変異が広汎性発達障害で見出されている。

家族研究ではMorrowらが広汎性発達障害とsodium/hydrogen exchanger 9(NHE9)遺伝子の変異との関連を報告している。NHE9遺伝子は、膜のイオン流入を制御する分子の一つである。一方、広汎性発達障害の一つであるRett症候群は、女性患者の80%において、methyl-CpG-binding protein 2(MeCP2)遺伝子のde novo変異が認められる。MeCP2はメチル化CpGジ

ヌクレオチドと結合する翻訳抑制体であり、通常はヒストンジアセチラーゼ1やクロマチンの抑制に関与するタンパク質を誘導する。また、AKT1遺伝子の変異が広汎性発達障害の原因になるという報告はないが、(PI3K)/AKT経路の異常が広汎性発達障害に関与するという報告はいくつかある。以上の様に様々な遺伝子が広汎性発達障害と関連することが見出されている。

我々は、広汎性発達障害者 35 例と健常発達者 35 例のコホートと統合失調症患者 45 例と健常者 45 例のコホートの末梢血より樹立した不死化リンパ芽球を用いて、これらの遺伝子の mRNA の発現量を比較検討した。さらに、近年、広汎性発達障害において、De novo(新規)の CNV (copy number variation:コピー数変異)が、その原因となっていることが報告されているため、日本人の孤発例の広汎性発達障害患者において、de novo の CNV の探索を行った。

## B. 研究方法

広汎性発達障害患者群 35 例(男:女=27:8, 平均年齢(±S.D.)=12.9(±12.4)才)と、性別をマッチさせた健常者群 35 例(男:女=26:9、平均年齢(±S.D.)=34.8(±9.7)才)の末梢血より不死化リンパ芽球を樹立した。また、別のコホートとして、統合失調症患者群 45 例(男:女=26:19, 平均年齢(±S.D.)=37.9(±1.6)才)と、年齢・性別をマッチさせた健常者群 45 例(男:女=26:19, 平均年齢(±S.D.)=38.1(±1.7)才)の末梢血より不死化リンパ芽球を樹立した。NLGN3、NLGN4、SHANK3、NHE9、MeCP2、NRXN1 および AKT1 遺伝子において、real-time quantitative-PCR 法を用いて mRNA を定量した。ハウスキーピング遺伝子である  $\beta$ -actin または TBP によって補正された mRNA の発現量を、Mann-Whitney の U 検定を用いて解析し、有意確率  $p < 0.001$  (両側)を有意とした。次に、広汎性発達障害患者 19 例において、アフィメトリクス社の CytoScan™ HD Array を用いて、CNV 解析を行った。CNV が見つかった患者においては、qPCR 法を用いて、患者での CNV の確認と、両親のゲノムサンプルを用いて De novo であることを検証した。本研究は、大阪大学倫理審査委員会の承認に基づいて行われた。

### (倫理面への配慮)

本研究は、精神疾患患者を対象とした遺伝子解析研究である。試料提供者およびその血縁者の遺伝的素因を研究するため、その取り扱いによっては、さ

まざまな倫理的、社会的問題を招く可能性がある。したがって、文部科学省、厚生労働省、経済産業省告示第 1 号の「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」を遵守した研究計画書を作成し、研究施設での倫理委員会において承認を受けた上で研究を行った。試料提供者への説明とインフォームド・コンセント、個人情報の厳重な管理(匿名化)などを徹底させた。また、遺伝子解析研究においては、大阪大学倫理審査委員会において承認を受けている。

本研究の説明を行う過程や試料等提供の過程で、強制的な態度や同意の強要をしないことはいうまでもない。試料提供の依頼を拒否したからといって、診療行為等に不合理または不公平なことが行われることは全くない。また、同意はいつでも文書によって撤回することができ、その場合、試料等は廃棄される。治療中の患者様に関しては、試料提供を依頼することが主治医によって不適切であると判断された場合は、試料提供の依頼は行わない。強制入院(医療保護入院や措置入院)している患者様は対象から除外する。

## C. 研究結果

### 果と考察

広汎性発達障害では健常者と比較して NLGN3 と SHANK3 遺伝子の mRNA の発現量は有意に減少していた。一方、統合失調症患者では健常者と比較してこれらの遺伝子の mRNA 発現量に有意差は認められなかった。また、NLGN4 と NRXN1 遺伝子の mRNA はリンパ芽球において測定することができなかった。

広汎性発達障害 19 例中、16 例において、ジェノタイプピングに成功し、16 例中、13 例において CNV が同定された。qPCR による確認実験と両親のゲノムサンプルを用いて de novo の検証を行った結果、de novo の CNV が 2 名の患者において見出された。この de novo の CNV の領域は、ともに 2q13 にあり重複で、どちらもほぼ同じ領域であった。

## D. 考察

今回の結果より、候補遺伝子の稀な変異をもつ広汎性発達障害だけでなく、遺伝子の翻訳レベルにおける機能的な変化もまた、広汎性発達障害の病態に関与している可能性が示唆された。NLGN3 遺伝子と SHANK3 遺伝子はシナプス関連遺伝子である。一方で、NHE9 遺伝子や MeCP2 遺伝子といった、他の遺伝子は、シナプス

において主要な役割を担っていない。これらの知見は、シナプスの機能障害が広汎性発達障害の病態に関連することを示しているのかもしれない。広汎性発達障害で認められた mRNA 発現量の減少が、統合失調症患者では認められなかったことより、これらは広汎性発達障害の疾患特異的な変化である可能性が示唆された。

広汎性発達障害患者の De novo の CNV を同定し、しかもその CNV が複数の患者に認められた。本領域には、NPHP1 という遺伝子があり、この遺伝子の欠失や変異は、Joubert 症候群や若年性ネフロン癆 1 の原因であることが知られている。Joubert 症候群は、特徴的な小脳と脳幹の形態異常、筋緊張低下、発達遅延、そして間欠的な過呼吸・無呼吸、非典型な眼球運動の両方又はいずれかを有する疾患であり、若年性ネフロン癆 1 は腎髄質に嚢胞形成を認める疾患である。

一方、NPHP1 遺伝子重複を持つ患者 7 名の症例報告があり、半数以上の患者で、言葉の遅れ・全般性発達障害・異形症・大頭症がみられている。よって、広汎性発達障害との関連が認められる可能性が示唆される。しかし、患者の両親やコントロールサンプルの提供者など、健常人においても NPHP1 重複を持つ例が 3 例見ついている。

本研究で見いだされた CNV 領域には、NPHP1 以外の遺伝子が数個あるため、これらの遺伝子がより病態に関与している可能性がある。今後、さらなる検討により広汎性発達障害の病態解明につながることを期待される。

## E. 結論

我々は、ヒト発達障害研究に不可欠な発達障害患者を精神医療現場で診療しつつ、研究への同意を取得し、研究参加していただくシステムの構築に成功している。そして、その血液サンプルより不死化した細胞を用いて広汎性発達障害関連遺伝子の発現異常を孤発性の広汎性発達障害において同定し、今までに報告のない de novo の CNV を同定した。これらの結果は、新たな診断・治療法のシーズと考えられる。このように本研究は、医療行政上、大変有意義であり、国民の保健・精神医療において多大なる貢献ができると考えられる。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Furukawa M, Tochigi M, Otowa T, Arinami T, Inada T, Ujike H, Watanabe Y, Iwata N, Itokawa M, Kunugi H, Hashimoto R, Ozaki N, Kakiuchi C, Kasai K, Sasaki T, An association analysis of the cardiomyopathy-associated 5 (CMYA5) gene with schizophrenia in a Japanese population. *Psychiatr Genet* (in press)
- 2) Kitaichi Y, Hashimoto R, Inoue T, Abekawa T, Kakuta A, Hattori S, Koyama T. Abnormalities in extracellular glycine and glutamate levels in the striatum of sandy mice. *Acta Neuropsychiatrica* (in press)
- 3) Aleksic B., Kushima I, Hashimoto R, Ohi K, Ikeda M, Yoshimi A, Nakamura Y, Ito Y, Okochi T, Fukuo Y, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Takeda M, Kaibuchi K, Iwata N, Ozaki N. Analysis of the VAV3 as candidate gene for schizophrenia: evidences from voxel based morphometry and mutation screening. *Schizophrenia Bulletin*. (in press) e-pub ahead of print 2012
- 4) Ota M. Sato N. Ishikawa M. Hori H. Sasayama D. Hattori K. Teraishi T. Obu S. Nakata Y. Nemoto K. Moriguchi Y. Hashimoto R. Kunugi H. Discrimination of schizophrenic females from healthy women using multiple structural brain measures obtained with voxel-based morphometry. *Psychiatry and Clinical Neurosciences Psychiatry Clin Neurosci*, 66(7):611-7, 2012
- 5) Kinoshita M, Numata S, Tajima A, Ohi K, Hashimoto R, Shimodera S, Imoto I, Itakura M, Takeda M, Ohmori T. Meta-analysis of association studies between DISC1 missense variants and schizophrenia in Japanese population. *Schizophr Res*, 141(2-3):271-3, 2012
- 6) Okada T, Hashimoto R, Yamamori H, Umeda-Yano S, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Ikemoto K, KUnii Y, Tomita H, Ito A, Takeda M. Expression

- analysis of a novel mRNA variant of the schizophrenia risk gene ZNF804A. *Schizophr Res*, 141(2-3):277-8, 2012
- 7) Kitazawa M, Ohnuma T, Takebayashi Y, Shibata N, Baba H, Ohi K, Yasuda Y, Nakamura Y, Aleksic B, Yoshimi A, Okochi T, Ikeda M, Naitoh H, Hashimoto R, Iwata N, Ozaki N, Takeda M. No Associations Found between the Genes Situated at 6p22.1, HIST1H2BJ, PRSS16 and PGBD1 in Japanese Patients Diagnosed With Schizophrenia. *American Journal of Medical Genetics Part B: Neuropsychiatric Genetics*, 159B(4): 456-64, 2012
  - 8) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Umeda-Yano S, Okada T, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Numata S, Ikeda M, Ohmura T, Iwata N, Ueno S, Ozaki N, Ohmori T, Arai H, Takeda M. Functional genetic variation at the NRGN gene and schizophrenia: evidence from a gene-based case-control study and gene expression analysis. *American Journal of Medical Genetics Part B: Neuropsychiatric Genetics*, 159B(4):405-13, 2012
  - 9) Wallwork RS, Fortgang R, Hashimoto R, Weinberger DR, Dickinson D. Searching for a consensus five-factor model of the Positive and Negative Syndrome Scale for schizophrenia. *Schizophr Res*, 137(1-3):246-50, 2012
  - 10) Watanabe Y, Egawa J, Iijima Y, Nunokawa A, Kaneko N, Shibuya M, Arinami T, Ujike H, Inada T, Iwata N, Tochigi M, Kunugi H, Itokawa Ma, Ozaki N, Hashimoto R, Someya T. A two-stage case-control association study between the tryptophan hydroxylase 2 (TPH2) gene and schizophrenia in a Japanese population. *Schizophrenia Research*, 137:264-266, 2012
  - 11) Koide T, Banno M, Aleksic B, Yamashita S, Kikuchi T, Kohmura K, Adachi Y, Kawano N, Kushima I, Nakamura Y, Okada T, Ikeda M, Ohi K, Yasuda Y, Hashimoto R, Inada T, Ujiike H, Iidaka T, Suzuki M, Takeda M, Iwata N, Ozaki N. Common Variants in MAGI2 Gene Are Associated with Increased Risk for Cognitive Impairment in Schizophrenic Patients. *Plos One*, 7(5):e36836, 2012
  - 12) Kushima I, Nakamura Y, Aleksic B, Ikeda M, Ito Y, Shiino T, Okochi T, Fukuo Y, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Hashimoto R, Takeda M, Kaibuchi K, Iwata N, Ozaki N. Resequencing and Association Analysis of the KALRN and EPHB1 Genes And Their Contribution to Schizophrenia Susceptibility. *Schizophr Bull*, 38(3):552-560, 2012
  - 13) Ohi K, Hashimoto R, Nakazawa T, Okada T, Yasuda Y, Yamamori H, Fukumoto M, Umeda-Yano S, Iwase M, Kazui H, Yamamoto T, Kano M, Takeda M. The p250GAP Gene is Associated with Risk for Schizophrenia and Schizotypal Personality Traits. *PLoS One*, 7(4):e35696, 2012
  - 14) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Iwase M, Kazui H, Takeda M. Personality traits and schizophrenia: evidence from a case-control study and meta-analysis. *Psychiatry Research*, 198(1):7-11, 2012
  - 15) Yamamori H, Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Kasahara E, Sekiyama A, Umeda-Yano S, Okada T, Iwase M, Kazui H, Ito A, Takeda M. A promoter variant in the Chitinase 3-Like 1 gene is associated with serum YKL-40 level and personality trait. *Neurosci Lett*, 513(3):204-208, 2012
  - 16) Takahashi H, Iwase M, Yasuda Y, Ohi Y, Fukumoto M, Iike N, Yamamori H, Nakahachi T, Ikezawa K, Azechi M, Canuet L, Ishii R, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. Relationship of Prepulse Inhibition to Temperament and Character in Healthy Japanese subjects. *Neuroscience Research* 72(2):187-193, 2012
  - 17) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Nemoto K, Ohnishi T, Fukumoto M, Yamamori H, Umeda-Yano S. Okada



- T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. Impact of the Genome Wide Supported NRG1 Gene on Anterior Cingulate Morphology in Schizophrenia. *PLoS One*, 7(1):e29780, 2012
- 18) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Nemoto K, Ohnishi T, Yamamori H, Takahashi H, Iike N, Kamino K, Yoshida T, Azechi M, Ikezawa K, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. The AKT1 gene is associated with attention and brain morphology in schizophrenia. *World J Biol Psychiatry*. 2011
- 19) Ota M, Fujii T, Nemoto K, Tatsumi M, Moriguchi Y, Hashimoto R, Sato N, Iwata N, Kunugi H. A polymorphism of the ABCA1 gene confers susceptibility to schizophrenia and related brain changes. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*. 35(8):1877-1883, 2011
- 20) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. The KCNH2 gene is associated with neurocognition and the risk of schizophrenia. *World J Biol Psychiatry*. 2011
- 21) Ikezawa K, Ishii R, Iwase M, Kurimoto R, Canuet L, Takahashi H, Nakahachi T, Azechi M, Ohi K, Fukumoto M, Yasuda Y, Iike N, Takaya M, Yamamori H, Kazui H, Hashimoto R, Yoshimine T, Takeda M. Decreased alpha event-related synchronization in the left posterior temporal cortex in schizophrenia: A magnetoencephalography-beamformer study. *Neurosci Res*. 71(3):235-43, 2011
- 22) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Takahashi H, Iwase M, Okochi T, Kazui H, Saitoh O, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H, Takeda M. Variants of the RELA gene are associated with schizophrenia and their startle responses. *Neuropsychopharmacology*, 36(9):1921-1931, 2011
- 23) Yamamori H, Hashimoto R, Verrall L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Umeda-Yano S, Ito A, Takeda M. Dysbindin-1 and NRG-1 gene expression in immortalized lymphocytes from patients with schizophrenia, *J Hum Genet*, 56(7):478-83, 2011
- 24) Yasuda Y, Hashimoto R, Yamamori H, Ohi K, Fukumoto M, Umeda-Yano S, Mohri I, Ito A, Taniike M, Takeda M. Gene expression analysis in lymphoblasts derived from patients with autism spectrum disorder. *Molecular Autism*, 2(1):9, 2011
- 25) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Numata S, Ikeda M, Ueno S, Ohmori T, Iwata N, Ozaki N, Takeda M. No association between the PCMI gene and schizophrenia: a multi-center case-control study and a meta-analysis. *Schizophrenia Res*, 129:80-84, 2011
- 26) Yasuda Y, Hashimoto R, Ohi K, Fukumoto M, Umeda-Yano S, Yamamori H, Okochi T, Iwase M, Kazui H, Iwata N, Takeda M. Impact on schizotypal personality trait of a genome-wide supported psychosis variant of the ZNF804A gene, *Neurosci Lett*, 495:216-220, 2011
- 27) Hashimoto H, Shintani N, Tanida M, Hayata A, Hashimoto R, Baba A. PACAP is Implicated in the Stress Axes, *Curr Pharm Des*, review, 17(10):985-9, 2011
- 28) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Umeda-Yano S, Kamino K, Ikezawa K, Azechi M, Iwase M, Kazui H, Kasai K, Takeda M. The SIGMAR1 gene is associated with a risk of schizophrenia and activation of the prefrontal cortex. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*, 35:1309-1315, 2011
- 29) Kobayashi K, Umeda-Yano S, Yamamori H, Takeda M, Suzuki H, Hashimoto R. Correlated Alterations in Serotonergic and Dopaminergic Modulations at the Hippocampal Mossy Fiber

- Synapse in Mice Lacking Dysbindin. *PLoS One*, 23;6(3):e18113, 2011
- 30) Ikeda M, Aleksic B, Kinoshita Y, Okochi T, Kawashima K, Kushima I, Ito Y, Nakamura Y, Kishi T, Okumura T, Fukuo Y, Williams HJ, Hamshere ML, Ivanov D, Inada T, Suzuki M, Hashimoto R, Ujike H, Takeda M, Craddock N, Kaibuchi K, Owen MJ, Ozaki N, O'Donovan MC, Iwata N. Genome-Wide Association Study of Schizophrenia in a Japanese Population. *Biol Psychiatry*, 69(5):472-478, 2011
- 31) Kazui H, Yoshida T, Takaya M, Sugiyama H, Yamamoto D, Kito Y, Wada T, Nomura K, Yasuda Y, Yamamori H, Ohi K, Fukumoto M, Iike N, Iwase M, Morihara T, Tagami S, Shimosegawa E, Hatazawa J, Ikeda Y, Uchida E, Tanaka T, Kudo T, Hashimoto R, Takeda M. Different Characteristics of Cognitive Impairment in Elderly Schizophrenia and Alzheimer's Disease in the Mild Cognitive Impairment Stage. *Dement Geriatr Cogn Disord*. 2011;1:20-30, 2011
- 32) Nihonmatsu-Kikuchi N, Hashimoto R, Hattori S, Matsuzaki S, Shinozaki T, Miura H, Ohta S, Tohyama M, Takeda M, Tatebayashi Y. Reduced rate of neural differentiation in the dentate gyrus of adult dysbindin null (sandy) mouse. *PLoS One*, 18;6(1):e15886, 2011
- 33) Takeda M, Martinez R, Kudo T, Tanaka T, Okochi M, Tagami S, Morihara T, Hashimoto R, Cacabelos R. Apolipoprotein E and central nervous system disorders: reviews of clinical findings. *Psychiatry Clin Neurosci*. 64(6):592-607, 2010. 12
- 34) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Iwase M, Iike N, Azechi M, Ikezawa K, Takaya M, Takahashi H, Yamamori H, Okochi T, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kazui H, Iwata N, Takeda M. The Impact of a Genome-Wide Supported Psychosis Variant in the ZNF804A Gene on Memory Function in Schizophrenia. *Am J Med Genet B Neuropsychiatry Genet*, 153B(8):1459-1464, 2010
- 35) Delawary M, Tezuka T, Kiyama Y, Yokoyama K, Inoue T, Hattori S, Hashimoto R, Umemori H, Manabe T, Yamamoto T, Nakazawa T. NMDAR2B tyrosine phosphorylation regulates anxiety-like behavior and CRF expression in the amygdala. *Mol Brain*. 3(1):37, 2010
- 36) Hayashi N, Kazui H, Kamino K, Tokunaga H, Takaya M, Yokokoji M, Kimura R, Kito Y, Wada T, Nomura K, Sugiyama H, Yamamoto D, Yoshida T, Currais A, Soriano S, Hamasaki T, Yamamoto M, Yasuda Y, Hashimoto R, Tanimukai H, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Morihara T, Takeda M. KIBRA genetic polymorphism influences episodic memory in Alzheimer's disease, but does not show association with disease in a Japanese cohort. *Dement Geriatr Cogn Disord*. 30(4):302-308, 2010
- 37) Yasuda Y, Hashimoto R, Ohi K, Fukumoto M, Takamura H, Iike N, Kiribayashi M, Yoshida T, Hayashi N, Takahashi H, Yamamori H, Morihara T, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kamino K, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. Association study of KIBRA gene with memory performance in a Japanese population. *World J Biol Psychiatry*, 11(7):852-857. 2010
- 38) Numata S, Nakataki M, Iga J, Tanahashi T, Nakadoi Y, Ohi K, Hashimoto R, Takeda M, Itakura M, Ueno S, Ohmori T. Association study between the pericentrin (PCNT) gene and schizophrenia. *Neuromolecular Med*, 12(3):243-247. 2010
- 39) Takahashi H, Iwase M, Canuet L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Iike N, Nakahachi T, Ikezawa K, Azechi M, Kurimoto R, Ishii R, Yoshida T, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. Relationship between prepulse inhibition of acoustic startle response and schizotypy in healthy Japanese

- subjects. *Psychophysiology*, 47(5):831-837. 2010
- 40) Mori K, Okochi M, Tagami S, Nakayama T, Yanagida K, Kodama T, Tatsumi S, Fujii K, Tanimukai H, Hashimoto R, Morihara T, Tanaka T, Kudo T, Funamoto S, Ihara Y, Takeda M. The production ratios of AICD  $\epsilon$  51 and A $\beta$ 42 by intramembrane proteolysis of  $\beta$ APP do not always change in parallel. *Psychogeriatrics*, 10(3):117-123, 2010
- 41) Takebayashi M, Hashimoto R, Hisaoka K, Tsuchioka M, Kunugi H. Plasma levels of vascular endothelial growth factor (VEGF) and fibroblast growth factor 2 (FGF-2) in patients with major depressive disorders. *J Neural Transm*. 117(9):1119-1122. 2010
- 42) Koide T, Aleksic B, Ito Y, Usui H, Yoshimi A, Inada T, Suzuki M, Hashimoto R, Takeda M, Iwata N, Ozaki N. A two-stage case-control association study of the dihydropyrimidinase-like 2 gene (DPYSL2) with schizophrenia in Japanese subjects. *J Hum Genet*. 55(7):469-472. 2010
- 43) Takeda M, Hashimoto R, Kudo T, Okochi M, Tagami S, Morihara T, Sadick G, Tanaka T. Laughter and humor as complementary and alternative medicines to dementia patients. *BMC Complement Altern Med*, 10(1):28, 2010
- 44) Amagane H, Watanabe Y, Kaneko N, Nunokawa A, Muratake T, Ishiguro H, Arinami T, Ujike H, Inada T, Iwata N, Kunugi H, Sasaki T, Hashimoto R, Itokawa M, Ozaki N, Someya T. Failure to find an association between myosin heavy chain 9, non-muscle (MYH9) and schizophrenia: a three-stage case-control association study. *Schizophr Res*, 118(1-3):106-112, 2010
- 45) Ohnuma T, Shibata N, Baba H, Ohi K, Yasuda Y, Nakamura Y, Okochi T, Naitoh H, Hashimoto R, Iwata N, Ozaki N, Takeda M, Arai H. No association between DAO and schizophrenia in a Japanese patient population: A multicenter replication study. *Schizophr Res*, 118(1-3):300-302, 2010
- 46) Fukuda S, Hashimoto R, Ohi K, Yamaguti K, Nakatomi Y, Yasuda Y, Kamino K, Takeda M, Tajima S, Kuratsune H, Nishizawa Y, Watanabe Y. A functional polymorphism in the disrupted-in schizophrenia 1 gene is associated with chronic fatigue syndrome. *Life Sci*, 86(19-20):722-725, 2010
- 47) Aleksic B, Kushima I, Ito Y, Nakamura Y, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Hashimoto R, Takeda M, Iwata N, Ozaki N. Genetic association study of KREMEN1 and DKK1 and schizophrenia in a Japanese population. *Schizophr Res*, 118(1-3):113-117, 2010
- 48) Schulze T, Alda M, Adli M, Akula N, Ardaur R, Chillotti C, Cichon S, Czerski P, Zompo M, SDetera-Wadleigh S, Grof P, Gruber O, Hashimoto R, Hauser J, Hoban R, Iwata N, Kassem L, Kato T, Kittel-Schneider S, Kliwicki S, Kelsoe J, Kusumi I, Laje G, Leckband S, Manchia M, MacQueen G, Masui T, Ozaki N, Perlis R, Pfennig A, Piccardi P, Richardson S, Rouleau G, Reif A, Rybakowski J, Sasse J, Schumacher J, Severino G, Smoller J, Squassina A, Turecki G, Young T, Yoshikawa T, Bauer M, McMahon F. The International Consortium on Lithium Genetics (ConLiGen): An Initiative by the NIMH and IGSLI to Study the Genetic Basis of Response to Lithium Treatment, *Neuropsychobiology*, 62(1):72-78, 2010
- 49) Munesue T, Yokoyama S, Nakamura K, Anitha A, Yamada K, Hayashi K, Asaka T, Liu HX, Jin D, Koizumi K, Islam MS, Huang JJ, Ma WJ, Kim UH, Kim SJ, Park K, Kim D, Kikuchi M, Ono Y, Nakatani H, Suda S, Miyachi T, Hirai H, Salmina A, Pichugina YA, Soumarokov AA, Takei N, Mori N, Tsujii M, Sugiyama T, Yagi K, Yamagishi M, Sasaki T, Yamasue H, Kato N, Hashimoto R,

- Taniike M, Hayashi Y, Hamada J, Suzuki S, Ooi A, Noda M, Kamiyama Y, Kido MA, Lopatina O, Hashii M, Amina S, Malavasi F, Huang EJ, Zhang J, Shimizu N, Yoshikawa T, Matsushima A, Minabe Y, Higashida H. Two genetic variants of CD38 in subjects with autism spectrum disorder and controls. *Neurosci Res*, 67:181-191, 2010
2. 学会発表
- 1) Furukawa M, Tochigi M, Otowa T, Kaibuchi K, Kasai K, Sasaki T, JIRAS (Japanese Genetics Initiative for Replicating Association of Schizophrenia). An Association Analysis of the Cardiomyopathy-Associated 5 (CMYA5) Gene With Schizophrenia In A Japanese Population. 20th World Congress of Psychiatric Genetics, 10. 14-18 (17), Germany. Poster
  - 2) Nakazawa T, Hashimoto R, Ohi K, Okada T, Yasuda Y, Yamamori H, Fukumoto M, Umeda-Yano S, Iwase M, Kazui H, Yamamoto T, Takeda M, Kano M. p250GAP/ARHGAP32 regulates spine morphogenesis and is associated with risk for schizophrenia. 8th FENS Forum of Neuroscience, 7. 14-18(16), 2012. Barcelona. poster
  - 3) Hashimoto R, Ohi K, Nakazawa T, Yasuda Y, Yamamori H, Fukumoto M, Iwase M, Kazui H, Yamamoto T, Kano M, Takeda M. The p250GAP Gene is Associated with Risk for Schizophrenia and Schizotypal Personality Trait. CNIP 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology. Stockholm, Sweden, 6. 3-7(5), 2012. poster
  - 4) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Nemoto K, Ohnishi T, Fukumoto M, Yamamori H, Umeda-Yano S, Okada T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. Impact of the Genome Wide Supported NRG1 Gene on Anterior Cingulate Morphology in Schizophrenia. CNIP 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology. Stockholm, Sweden, 6. 3-7(4), 2012. poster
  - 5) Hashimoto H, Takano-Hayata A, Shintani N, Hashimoto R, Takeda M, Baba A. Psychiatric Implications of Pituitary Adenylate Cyclaseactivating Polypeptide (PACAP)-Dependent Stress Responses. 2nd Congress of AsCNP, Seoul, Korea, 9. 23-24(23, 24), 2011. poster
  - 6) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Takahashi H, Iwase M, Kazui H, Saitoh O, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H, Takeda M. Variants of the RELA gene are associated with schizophrenia and their startle responses. 2nd Congress of AsCNP, Seoul, Korea, 9. 23-24(23, 24), 2011. poster
  - 7) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. The KCNH2 gene is associated with neurocognition and the risk of schizophrenia. 2nd Congress of AsCNP, Seoul, Korea, 9. 23-24(23, 24), 2011. poster
  - 8) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. The KCNH2 gene is associated with neurocognition and the risk of Schizophrenia. 19th World Congress of Psychiatric Genetics, Washington D.C., U.S.A. 9. 10-14(12), 2011. poster
  - 9) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Takahashi H, Iwase M, Okochi T, Kazui H, Saitoh O, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H, Takeda M. Variants of the RELA gene are associated with schizophrenia and their startle responses. 19th World Congress of Psychiatric Genetics, Washington D.C., U.S.A. 9. 10-14(12), 2011. Poster
  - 10) Koide T, Alesksic B, Yoshimi A, Kushima I, Nakamura Y, Ikeda M, Ohi K, Yasuda Y, Hashimoto R, Inada T, Hiroshi U, Suzuki M, Takeda M, Iwata N, Ozaki N. Association study and expression analysis between MAGI2 and schizophrenia. 19th World Congress of Psychiatric Genetics, Washington D.C., U.S.A. 9. 10-14(11), 2011. poster
  - 11) Takeda M, Yamamori H, Hashimoto R. Risk Genes of Cognitive Impairment of Schizophrenia. 3rd World Congress of Asian Psychiatry, Melbourne, Australia, 7. 31-8. 4(1), 2011. Oral
  - 12) Yamamori H, Hashimoto R, Verral L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Ito A, Takeda M. Expression Array of Lymphoblasts from Schizophrenic Patients. 3rd World Congress of Asian Psychiatry, Melbourne,

- Australia, 7.31-8.4(1), 2011. Oral
- 13) Nakae A, Hashimoto R, Sakai N, Hagihira S, Shibata M, Mashimo T. Pain in patients with schizophrenia- Difference between electrical and heat stimulation - Euroanaesthesia 2011 , Amsterdam, Holland, 6.10-14(13),2011, poster
  - 14) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Takeda M. Dysbindin: Possible target molecule for antipsychotic development. 10th World Congress of Biological Psychiatry, Prague, Czech Republic, 5.29-6.2(30), 2011. invited speaker
  - 15) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. The KCNH2 Gene Is Associated with Neurocognition and the Risk of Schizophrenia. 10th World Congress of Biological Psychiatry, Prague, Czech Republic, 5.29-6.2(31), 2011. poster
  - 16) Aleksic B, Hashimoto R, Kushima I, Ikeda M, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Takeda M, Kaibuchi K, Iwata N, Ozaki N. Analysis of the VAV3 as new candidate gene for schizophrenia: Evidences from voxel based morphometry and mutation analysis. 10th World Congress of Biological Psychiatry, Prague, Czech Republic, 5.29-6.2(1), 2011. poster
  - 17) Koide T, Aleksic B, Ikeda M, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Hashimoto R, Takeda M, Iwata N Ozaki N. Association study and cognitive function analysis of MAGI2 as a candidate gene for schizophrenia. 10th World Congress of Biological Psychiatry, Prague, Czech Republic, 5.29-6.2(31), 2011. poster
  - 18) Takahashi H, Iwase M, Yasuda Y, Yamamori H, Ohi K, Fukumoto M, Canuet L, Ishii R, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. Relationship of prepulse inhibition to opersonality dimensions in Japanese patients with wchizophrenia. 10th World Congress of Biological Psychiatry, Prague, Czech Republic, 5.29-6.2(31), 2011. poster
  - 19) Tagami S, Okochi M, Yanagida K, Kodama T, Ikeuchi T, Morihara T, Hashimoto R, Tanimukai H, Kazui H, Tanaka T, Kudo T, Takeda M. Decrease in major amyloid beta species may trigger amyloidogenesis in vivo. 10th World Congress of Biological Psychiatry, Prague, Czech Republic, 5.29-6.2(1), 2011. poster
  - 20) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, and Takeda M. Dysbindin and Pathophysiology of Schizophrenia. 2nd Asian Congress on Schizophrenia Research, Seoul, Korea, 2.11-12(12), 2011. invited speaker
  - 21) Takeda M, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Hashimoto R. Translational Research for Schizophrenia-Genes, Intermediate Phenotypes and Neurobiology. 2nd Asian Congress on Schizophrenia Research, Seoul, Korea, 2.11-12(12), 2011. Invited speaker
  - 22) Hashimoto H, Meltzer HY, Hashimoto R, Jayathilake K, Takano-Hayata A, Ogata K, Shintani N, Takeda M, Baba A. Possible implication of pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) in schizophrenia: regulation of spine formation and genetic association. The 49th ACNP (American College of Neuropsychopharmacology) Annual Meeting, Miami Beach, Florida, USA, 12.5-9(7), 2010. poster
  - 23) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Iwase M, Iike N, Azechi M, Ikezawa K, Takaya M, Takahashi H, Yamamori H, Okochi T, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kazui H, Iwata N, Takeda M. The Impact of a Genome-Wide Supported Psychosis Variant in the ZNF804A Gene on Memory Function in Schizophrenia. The 49th ACNP (American College of Neuropsychopharmacology) Annual Meeting, Miami Beach, Florida, USA, 12. 5-9(7), 2010, poster
  - 24) Nakae A, Hashimoto R, Maeda S, Oku T, Fukumoto M, Ohi K, Yasuda Y, Yamamori H, Sakai N, Sakaue G, Ishigaki S, Kamide H, Hagihira S, Takeda M, Shibata M, Mashimo T, Pain sensitivity changes in patients with schizophrenia, Neuroscience 2010, San Diego, 11. 13-17(16) 2010, poster
  - 25) Iwase M, Azechi M, Ikezawa K, Ishii R, Takahashi H, Nakahachi T, Canuet L, Aoki Y, Kurimoto R, Kazui H, Fukumoto M, Iike N, Ohi K, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R, Takeda M. Two-channel near infrared spectroscopy (NIRS) activation curves of oxyhemoglobin during frontal lobe tasks in schizophrenia. Neuroscience 2010, San Diego,

- 11.13-17(16) 2010, poster
- 26) Ikeda M, Tomita Y, Mouri A, Koga M, Okouchi O, Yoshimura R, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Hashimoto R, Williams H, Takeda M, Nakamura J, Nabeshima T, Owen MJ, O' Donovan MC, Honda H, Arinami T, Ozaki N, Iwata N. Identification of novel candidate genes for treatment response to risperidone and susceptibility for schizophrenia: integrated analysis among pharmacogenomics, mouse expression and genetic case-control association approaches. The 18th International Society of Psychiatric Genetics(ISPG). Athens, Greece, 10.3-7.2010, poster
- 27) Hashimoto R, Takeda M, Schizophrenia and Dysbindin, a Susceptibility Gene, The 25th Anniversary Conference, Korean Society of Biological Psychiatry, Seoul, Korea, 10.1, 2010. Oral
- 28) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Takeda M, Translational Research For Schizophrenia: Genes, Intermediate Phenotypes, and Function. 11th Australasian Schizophrenia Conference , Sydney, Australia, 9.22-24, 2010. invited speaker
- 29) Iwase M, Azechi M, Ikezawa K, Ishii R, Takahashi H, Nakahachi T, Canuet L, Kurimoto R, Kazui K, Fukumoto M, Iike N, Ohi K, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R, Takeda M. Frontal lobe dysfunction and regional hemodynamic changes in major depression: A near infrared spectroscopy study. ICCN2010, Kobe . Japan. 10.28-11.1(31).2010, poster
- 30) Azechi M, Iwase M, Ishii R, Ikezawa K, Canuet L, Kurimoto R, Takahashi H, Nakahachi T, Fukumoto M, Ohi K, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R, Takeda M. Two-channel NIRS activation curves of oxyhemoglobin during frontal lobe tasks in schizophrenia, ICCN2010 , Kobe . Japan. 10.28-11.1(29).2010, poster
- 31) Sakai N, Nakae A, Hashimoto R, Takashina M, Mashimo T. The less sensitivity to pain in patients with schizophrenia in a post operative period. The 13th Asian Australasian Congress of Anesthesiologists, Fukuoka, Japan, 6.1-5(3),2010, poster
- 32) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Iwase M, Iike N, Azechi M, Ikezawa K, Takaya M, Takahashi H, Yamamori H, Ishii R, Kazui H, Iwata N, Takeda M. The Impact of a Genome-Wide Supported Psychosis Variant in the ZNF804A Gene on Memory Function in Schizophrenia. 2nd Biennial Schizophrenia International Research Society Conference, Florence, Italy, 4.10-14(11), 2010. poster
- 33) Yamamori H, Hashimoto R, Takamura H, Verral L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Ito A, Takeda M. Dysbindin1 and NRG genes expressions in immortalized lymphocytes from patients with schizophrenia. 2nd Biennial Schizophrenia International Research Society Conference, Florence, Italy, 4.10-14(13), 2010. poster
- 34) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Iike N, Yamamori H, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. Personality traits and schizophrenia: evidence from a case-control study and meta-analysis, 2nd Biennial Schizophrenia International Research Society Conference, Florence, Italy, 4. 10-14(12), 2010. poster
- 35) Yasuda Y, Hashimoto R, Takamura H, Ohi K, Fukumoto M, Nemoto K, Ohnishi T, Yamamori H, Takahashi H, Iike N, Kamino K, Yoshida T, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. AKT1 gene is associated with attention and brain morphology in patients with schizophrenia. 2nd Biennial Schizophrenia International Research Society Conference, Florence, Italy, 4.10-14(13), 2010. poster
- 36) Iwase M, Azechi M, Ikezawa K, Ishii R, Takahashi H, Nakahachi T, Canuet L, Kurimoto R, Kazui H, Fukumoto M, Iike N, Ohi K, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R, Takeda M. Two-channel near infrared spectroscopy (NIRS) activation timing curves of oxyhemoglobin during frontal tasks in schizophrenia. 2nd Biennial Schizophrenia International Research Society Conference, Florence, Italy, 4.10-14(12), 2010. poster
- 37) Canuet L, Ishii R, Iwase M, Ikezawa K, Kurimoto R, Takahashi H, Azechi M, Currais A, Nakahachi

- T, Ohi K, Yasuda Y, Yamamori H, Fukumoto M, Hashimoto R, Takeda M. Cortical dysfunction during visual working memory in schizophrenia and schizophrenia-like psychosis of epilepsy: A magnetoencephalography study. 2nd Biennial Schizophrenia International Research Society Conference, Florence, Italy, 4.10-14(11), 2010. Poster
- 38) 橋本亮太、「統合失調症専門外来・入院プログラム」-地域医療機関と連携した臨床・教育・研究システム-、池田市医師会学術講演会、大阪、12.19, 2012. 招待講演
- 39) 橋本亮太、「統合失調症専門外来・入院プログラムによる臨床・教育・研究システムの構築」、ワークショップ これからの統合失調症治療を考えるークロザリルミーティングー、岐阜、12.13, 2012 特別講演
- 40) 橋本亮太、「統合失調症専門外来・入院プログラムによる臨床・教育・研究システムの構築」、ワークショップ これからの統合失調症治療を考えるークロザリルミーティングー、金沢、11.22, 2012. 特別講演
- 41) 橋本亮太、疼痛症状のある精神疾患-その鑑別と合併-、第五回日本運動器疼痛学会 シンポジウム、東京有明、11.18, 2012. 招待講演
- 42) 橋本亮太、中間表現型を用いたヒト脳形態ゲノム解析、公開シンポジウム：第三期のニホンザルバイオリソースプロジェクトーさらなる発展を目指してーナショナルバイオリソースプロジェクト-第三期を迎えて：NBRの将来展望、東京、11.9, 2012. 招待講演
- 43) 橋本亮太、痛み医療における精神疾患を誰が診るのか？シンポジウム「痛みの医療における質問票を用いた評価法の有用性と限界」、日本臨床麻酔学会第32回大会、郡山、11.1-3(2), 2012. 招待講演
- 44) 橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素由己、大井一高、井上頌子、竹上学、武田雅俊、統合失調症入院プログラムにおける治療抵抗性統合失調症に対する clozapine の有用性、第22回日本臨床精神神経薬理学会第42回日本神経精神薬理学会合同年会、栃木、10.18-20(19), 2012. 口演
- 45) 大井一高、橋本亮太、中澤敬信、安田由華、山森英長、梅田知美、岩瀬真生、数井裕光、山本雅、狩野方伸、武田雅俊、p 250GAP 遺伝子は統合失調症のリスク及び統合失調症型パーソナリティと関連する、第22回日本臨床精神神経薬理学会第42回日本神経精神薬理学会合同年会、栃木、10.18-20(19), 2012. ポスター
- 46) 梅田知美、橋本亮太、山森英長、岡田武也、安田由華、大井一高、福本素由己、伊藤彰、武田雅俊、統合失調症関連遺伝子 ZNF804A は TGF- $\beta$  シグナリングに關与する遺伝子発現を制御する、第22回日本臨床精神神経薬理学会第42回日本神経精神薬理学会合同年会、栃木、10.18-20(19), 2012. ポスター
- 47) 安田由華、橋本亮太、大井一高、福本素由己、山森英長、疇地道代、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、自閉症スペクトラム障害におけるハノイの塔課題時の前頭葉の血流低下について：2チャンネル NIRS (Near Infra-Red Spectroscopy) による脳機能計測研究、第22回日本臨床精神神経薬理学会第42回日本神経精神薬理学会合同年会、栃木、10.18-20(19), 2012. ポスター
- 48) 山森英長、橋本亮太、安田由華、福本素由己、大井一高、藤本美智子、武田雅俊、阪大病院における23症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：副作用によって中止した症例のの転帰について、第22回日本臨床精神神経薬理学会第42回日本神経精神薬理学会合同年会、栃木、10.18-20(18), 2012. ポスター
- 49) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Takahashi H, Iwase M, Okochi T, Kazui H, Saitoh O, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H, Takeda M. Variants of the RELA gene are associated with schizophrenia and their startle responses. 第34回日本生物学的精神医学会、神戸、9.28-30(29), 2012. ポスター
- 50) 橋本亮太、安田由華、山森英長、梅田知美、深井綾子、大井一高、福本素由己、毛利育子、谷池雅子、松本直通、武田雅俊、広汎性発達障害の原因遺伝子とその探索ストラテジーー Research strategy for identifying ASD genes-、第34回日本生物学的精神医学会、第11回アジア太平洋神経化学学会大会・第55回日本神経化学学会大会合同シンポジウム、神戸、9.28-10.2(30), 2012. 口演
- 51) 大井一高、橋本亮太、安田由華、根本清貴、大西隆、福本素由己、山森英長、梅田知美、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症と NRGN 遺伝子：統合失調症の中間表現型への影響、The NRGN gene and schizophrenia: Impact of the gene on

- intermediate phenotypes for schizophrenia. 第 34 回日本生物学的精神医学会、神戸、9. 28-30(30), 2012. 口演
- 52) 山森英長、橋本亮太、梅田知美、Cyndi Shannon Weickert、安田由華、大井一高、福本素由己、藤本美智子、伊藤彰、武田雅俊、統合失調症患者死後脳における、GWAS で報告された統合失調症関連遺伝子の発現解析 -Expression analysis of schizophrenia risk genes identified in GWAS using post mortem brain-、第 34 回日本生物学的精神医学会、神戸、9. 28-30(30), 2012. ポスター
- 53) 梅田 知美、橋本亮太、山森英長、岡田武也、安田由華、大井一高、福本素由己、伊藤彰、武田雅俊、統合失調症関連遺伝子 ZNF804A は TGF- $\beta$  シグナリングに参与する遺伝子発現を制御する -The Regulation of gene expression involved in TGF- $\beta$  signaling by ZNF804A, a risk gene for schizophrenia. 第 34 回日本生物学的精神医学会、神戸、9. 28-30(29), 2012. ポスター
- 54) 沼田周助、木下誠、田嶋敦、大井一高、橋本亮太、下寺信次、井本逸勢、武田雅俊、大森哲郎、メタアナリシス解析を用いた DISC 1 機能多型と統合失調症の遺伝子関連研究 - Meta-analysis of association studies between DISC1 missense variants and schizophrenia in Japanese population-、第 34 回日本生物学的精神医学会、神戸、9. 28-30(30), 2012. ポスター
- 55) 安田由華、橋本亮太、大井一高、福本素由己、山森英長、畦地道代、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、自閉症スペクトラム障害におけるハノイの塔課題時の前頭葉の血流低下：2チャンネルNIRSによる研究 -Reduced prefrontal activation in Autism Spectrum Disorders:A two-channel NIRS study-第 34 回日本生物学的精神医学会、神戸、9. 28-30(29), 2012. ポスター
- 56) 橋本亮太、大井一高、安田由華、山森英長、梅田知美、福本素由己、武田雅俊、「ゲノム研究による精神疾患診断は可能か?」、シンポジウム：バイオロジカルマーカー研究から DSM-V に向けて、Biological marker research towards DSM-V、第 34 回日本生物学的精神医学会、神戸、9. 28-30(30), 2012. 口演
- 57) 橋本亮太、大井一高、安田由華、山森英長、梅田知美、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、シンポジウム：統合失調症の分子メカニズム研究の新しい潮流：中間表現型を用いた統合失調症の病態解明、第 35 回日本神経科学大会、愛知、9. 18-21(19), 2012. シンポジウム、講演、座長
- 58) 中澤敬信、橋本亮太、武田雅俊、狩野方伸、シンポジウム：統合失調症の分子メカニズム研究の新しい潮流：p250GAP/TCGAP ファミリー-RhoGAP 遺伝子と統合失調症との関連性の解析、第 35 回日本神経科学大会、愛知、9. 18-21(19), 2012. シンポジウム、講演
- 59) 橋本亮太、「FM における精神疾患-治療構造の構築法と鑑別診断-」、日本線維筋痛症学会第 4 回学術集会、長崎、9. 15-16(16).2012. 講演
- 60) 西岡久寿樹、橋本亮太、座長、「創薬標的の最新診断・バイオマーカー」、日本線維筋痛症学会第 4 回学術集会、長崎、9. 15-16(16).2012.
- 61) Yamamori H, Hashimoto R, Umeda-Yano S, Yasuda Y, Ohi K, Ito A, Takeda M. Expression analysis of the genes identified by GWAS in postmortem brain tissues from BPD and SZ. The 2nd Meeting of East Asian Bipolar Forum(2nd EABF). Fukuoka, 9. 7-8(7),2012. 口演
- 62) Hashimoto R, Chariman, Symposium2 “Cognition and Neurophysiology of Bipolar Disorder” The 2nd Meeting of East Asian Bipolar Forum(2nd EABF). Fukuoka, 9. 7-8(7),2012. 9/7-8(7),2012
- 63) 橋本亮太、うつ病：モノアミン仮説から神経栄養因子仮説へ—新しい治療とより早い診断を目指した神経科学の最前線—、第九回日本うつ病学会総会モーニングセミナー 1、東京、7. 27-28(28),2012.
- 64) 中澤敬信、橋本亮太、大井一高、安田由華、山森英長、山本雅、武田雅俊、狩野方伸、p250GAP/TCGAP ファミリー-RhoGAP 遺伝子と統合失調症との関連性の解析、2012 年度包括脳ネットワーク夏のワークショップ、仙台、7. 24-27(26), 2012. ポスター
- 65) 橋本亮太、大井一高、安田由華、梅田知美、山森英長、武田雅俊、ヒトにおける脳表現型の分子機構の解明：ヒト脳表現型コンソーシアムについて、2012 年度包括脳ネットワーク夏のワークショップ、仙台、7. 24-27(26), 2012. ポスター
- 66) 橋本亮太、山森 英長、安田 由華、福本 素由己、大井 一高、梅田 知美、岡田 武也、武田 雅俊、阪大病院における 20 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験、第 108 回日本精神神経学会学術総会、札幌、5. 24-26(24), 2012. 口演
- 67) 橋本亮太、大井 一高、安田 由華、山森 英長、福



- 本 素由己、梅田 知美、岡田 武也、武田 雅俊、統合失調症専門外来・入院プログラムによる地域医療と臨床研究の融合システムの構築、第 108 回日本精神神経学会学術総会、第 108 回日本精神神経学会学術総会、札幌、5.24-26(25), 2012. 口演
- 68) 大井 一高、橋本亮太、安田 由華、根本 清貴、大西 隆 5、福本 素由己、山森 英長、岩瀬 真生、数井 裕光、武田 雅俊、統合失調症における全ゲノム関連解析による NRGN 遺伝子は前帯状回体積と関連する、第 108 回日本精神神経学会学術総会、札幌、5.24-26(25), 2012. ポスター
- 69) 橋本亮太、「統合失調症専門外来・入院プログラム」-地域医療機関と連携した臨床・教育・研究システム-、福井 DS フォーラム、福井、5.10, 2012. 講演
- 70) 橋本亮太、増井拓哉、伊藤圭人、小笠原一能、笹田和見、小出隆義、足立康則、福本素由己、久住一郎、尾崎紀夫、武田雅俊、小山司、加藤忠史、Alda スケール (双極性障害患者における長期治療効果の後方視的基準) の信頼性の検討、第 31 回リチウム研究会、東京、4.14, 2012. 講演
- 71) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Takeda M. Translational research in schizophrenia using research bioresources and databases in the Japanese Human Brain Phenotype Consortium. 第 2 回日独 6 大学学長会議、京都、3.30, 2012. 講演
- 72) 橋本亮太、精神疾患臨床研究の道 -その本質とコツ-、第 2 3 回ヒューマンストレス産業技術研究会「うつ病の発症・治療・診断-治療診断に必要な技術と本質的課題とは-」、大阪、3.29. 2012. 講演
- 73) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Nemoto K, Ohnishi T, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Numata S, Ikeda M, Ohnuma T, Iwata N, Ueno S, Ozaki N, Ohmori T, Arai H, Takeda M. The genome wide supported NRGN gene and schizophrenia: evidence from a voxel-based morphometry study, a gene-based case-control study and gene expression analysis. 第 7 回日本統合失調症学会、愛知、3.16-17(16), 2012. ポスター
- 74) 山森英長、橋本亮太、岡田武也、梅田知美、安田由華、大井一高、福本素由己、伊藤彰、富田博秋、武田雅俊、統合失調症リスク遺伝子 ZNF804A の新規 mRNA variant の検討、第 7 回日本統合失調症学会、愛知、3.16-17(16), 2012. ポスター
- 75) 橋本亮太、大井一高、安田由華、山森英長、福本素由己、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、統合失調症専門外来・入院プログラムによる地域医療と臨床研究の融合システムの構築、第 7 回日本統合失調症学会、愛知、3.16-17(17), 2012. ポスター
- 76) 橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素由己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 20 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験、第 7 回日本統合失調症学会、愛知、3.16-17(17), 2012. ポスター
- 77) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、高橋秀俊、中鉢貴行、レオニデスカヌエト、栗本龍、青木保典、池田俊一郎、数井裕光、福本素由己、大井一高、山森英長、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、統合失調症における Sternberg 課題中の前頭部血流変化の NIRS による測定、第 7 回日本統合失調症学会、愛知、3.16-17(16), 2012. ポスター
- 78) 新井誠、宮下光弘、市川智恵、豊田倫子、前川素子、大西哲生、吉川武男、有波忠雄、久島周、尾崎紀夫、福本素由己、橋本亮太、小池進介、滝沢龍、笠井清登、渡邊琢夫、山本博、宮田敏男、岡崎祐士、糸川昌成、統合失調症におけるカルボニルストレス代謝制御の分子基盤解明、第 7 回日本統合失調症学会、愛知、3.16-17(16), 2012. ポスター
- 79) 橋本亮太、「統合失調症治療の新たな枠組みを考える」-統合失調症専門外来・入院プログラムでのクロザピン治療経験を踏まえて-第 7 回日本統合失調症学会 ランチョンセミナー4、愛知、3.16-17(17), 2012. 講演
- 80) 橋本亮太、「統合失調症専門外来・入院プログラム」-地域医療機関と連携した臨床・教育・研究システム-、第 8 回和歌山統合失調症・うつ病研究会、和歌山、3.3, 2012. 講演
- 81) 橋本亮太、大井一高、安田由華、山森英長、福本素由己、梅田知美、岡田武、武田雅俊、分子・脳機能・精神疾患を結ぶ新しいアプローチ-ヒト脳表現型コンソーシアム、京都大学霊長類研究所共同利用研究会、愛知、3.2, 2012、口頭
- 82) Banno TK M, Aleksic B, Kushima I, Nakamura Y, Ikeda M, Ohi K, Yasuda Y, Inada T, Hashimoto R, Suzuki M, Ujike, Takeda M, Iwata N, Ozaki N: A case-control association study of the neuropilin and tolloid -like 1 gene (NETO1) with schizophrenia in the Japanese population. 第 3 回 NAGOYA グローバルリトリート、愛知、2.25-26,

- 2011
- 83) 橋本亮太、「統合失調症専門外来・入院プログラム」-地域医療機関と連携した臨床・教育・研究システム- 徳島大学医学部精神科医局セミナー、徳島、2. 15, 2012. 講演
- 84) 橋本亮太、分子・脳機能・精神疾患を結ぶ新しいアプローチ-ヒト脳表現型コンソーシアム、新潟大学大学院医歯学総合研究科分子細胞機能学教室セミナー、新潟、1. 27. 2012.
- 85) 井上頌子、竹上学、小野聡、高垣佳史、山田貴之、松井浩子、上田要一、大石雅子、三輪芳弘、橋本亮太、武田雅俊、黒川信夫、クロザピン適正使用における薬剤師の役割、第 33 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、大阪、1. 21-22, 2012. ポスター
- 86) 橋本亮太、統合失調症リスク遺伝子 NRG1 のリスク多型は前部帯状回体積と関連する、平成 23 年度厚生労働科学研究・障害者対策総合研究事業・武田班班会議「精神疾患の生物学的病態解明研究 -最新の神経科学・分子遺伝学との融合-」、大阪、1. 17, 2011. 口頭
- 87) 松浦由加子、藤野陽生、橋本亮太、井村修、統合失調症患者の姿勢不安定性とその要因の検討、2011 年度日本リハビリテーション心理学会学術大会、大阪、12. 9, 2011. 口頭
- 88) 安田由華、橋本亮太、山森英長、大井一高、福本素由乙、梅田-矢野知美、毛利育子、伊藤彰、谷池雅子、武田雅俊、自閉症スペクトラム障害におけるリンパ芽球を用いた mRNA 発現定量解析についての検討、第 44 回精神神経系薬物治療研究報告会、大阪、12. 2, 2011. ポスター
- 89) 新井誠、宮下光弘、市川智恵、豊田倫子、大西哲生、吉川武男、有波忠雄、岡崎祐士、久島周、尾崎紀夫、福本素由己、橋本亮太、小池進介、滝沢龍、笠井清登、山本博、渡邊琢夫、宮田敏男、糸川昌成、カルボニストレス代謝制御の解明と統合失調症の診断・治療・予防法の創出、第 44 回精神神経系薬物治療研究報告会、大阪、12. 2, 2011. ポスター
- 90) 橋本亮太、分子・脳機能・精神疾患を結ぶ新しいアプローチ-ヒト脳表現型コンソーシアム、慶應義塾大学医学部生理学教室セミナー、東京、11. 22, 2011. 講演
- 91) 橋本亮太、ヒト脳表現型コンソーシアムについて、第二回脳表現型の分子メカニズム研究会、東京、11. 19, 2011. 口頭
- 92) 安田由華、橋本亮太、新型インフルエンザ罹患後に Kleine-Levin 症候群を発症した一例へのリスベリドンの効果、第 52 回日本児童青年精神医学会、徳島、11. 12(12), 2011. ポスター
- 93) 水田直樹、安田由華、木田香織、橋本亮太、武田雅俊、重症神経性食思不振症女児の構造化治療の一症例、第 52 回日本児童青年精神医学会、徳島、11. 12(11), 2011. ポスター
- 94) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、高橋秀俊、中鉢貴行、Canuet Leonides、栗本龍、青木保典、池田俊一郎、数井裕光、福本素由己、大井一高、山森英長、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、Stermberg 課題中の前頭部血流変化の NIRS による測定、第 41 回日本臨床神経生理学学会学術大会、静岡、11. 10-12(12)、2011、ポスター
- 95) 橋本亮太、「統合失調症の包括的臨床研究」-遺伝子解析から治療抵抗性統合失調症の治療まで-、クロザリルミーティング 岡山、岡山、11. 1, 2011. 特別講演
- 96) 大井一高、橋本亮太、安田由華、福本素由己、山森英長、紙野晃人、森原剛史、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、KCNH2 遺伝子は認知機能及び統合失調症のリスクに関連する、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10. 27-29(27), 2011. ポスター
- 97) 橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、山森英長、高橋秀俊、岩瀬真生、大河内智、数井裕光、斉藤治、巽雅彦、岩田仲生、尾崎紀夫、上島国利、功刀浩、武田雅俊、RELA 遺伝子は統合失調症のリスク及びプレパルス抑制の障害に関連する、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10. 27-29(27), 2011. ポスター
- 98) 橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素由己、大井一高、梅田知美、岡田武也、住吉太幹、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：認知機能障害への効果、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10. 27-29(28), 2011. ポスター
- 99) 安田由華、橋本亮太、山森英長、福本素由己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：麻痺性イレウス・便秘について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10. 27-29(28),

2011. ポスター

- 100) 安田由華、橋本亮太、山森英長、福本素己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：起立性低血圧、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(28), 2011. ポスター
- 101) 橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素己、大井一高、梅田知美、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：前薬からの切り替えについて、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(27), 2011. ポスター
- 102) 山森英長、橋本亮太、安田由華、福本素由己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：てんかん発作、痙攣について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(28), 2011. ポスター
- 103) 山森英長、橋本亮太、安田由華、福本素由己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：肝機能異常について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(28), 2011. ポスター
- 104) 福本素由己、橋本亮太、山森英長、安田由華、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：好中球減少症について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(28), 2011. ポスター
- 105) 橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：治療効果について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(27), 2011. ポスター
- 106) 福本素由己、橋本亮太、山森英長、安田由華、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：多飲水について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(28), 2011. ポスター
- 107) 橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：適応判断について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(28), 2011. ポスター
- 108) 大井一高、橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素由己、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験：クロザピン使用における糖代謝異常について、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(27), 2011. ポスター
- 109) 橋本亮太、山森英長、安田由華、福本素由己、大井一高、梅田知美、岡田武也、武田雅俊、阪大病院における 14 症例の治療抵抗性統合失調症患者へのクロザピンの使用経験、第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、10.27-29(27), 2011. 口頭
- 110) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui K, Takeda M. KCNH2 Gene is associated with Neurocognition and the Risk for Schizophrenia. 第 107 回日本精神神経学会学術総会、東京、10.26-27(27), 2011. ポスター
- 111) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Iwase M, Kazui H, Fukumoto M, Yamamori H, Takeda M. The Chitinase 3-Like 1 gene is associated with the gene expression, the serum YKL-40 and the personality trait in schizophrenia. 第 107 回日本精神神経学会学術総会、東京、10.26-27(27), 2011. ポスター
- 112) 橋本亮太、統合失調症の包括的臨床研究：遺伝子解析から治療抵抗性統合失調症の治療まで、クロザリルミーティング、大阪、10.18, 2011. 特別講演
- 113) 橋本亮太、女性研究者のライフプラン—いつ、何を、どう決めるか—、神経化学の若手研究者育成セミナー、第 54 回日本神経化学会大会、石川、9.26-28(26), 2011. 講演
- 114) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、山森

- 英長、梅田知美、岡田武也、高雄啓三、小林克典、楯林義孝、宮川剛、貝淵弘三、岩田仲生、尾崎紀夫、武田雅俊、統合失調症の候補遺伝子の精神生物学、第 54 回日本神経化学学会大会、石川、9.26-28(26), 2011. シンポジウム、講演
- 115) 橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、山森英長、梅田知美、岡田武也、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、ヒト脳表現型と分子を結ぶ新しいアプローチ：ヒト脳表現型コンソーシアム、第 54 回日本神経化学学会大会、石川、9.26-28(26), 2011. シンポジウム、講演
- 116) 山路國弘、橋本亮太、大井一高、福本素由己、安田由華、山森英長、統合失調症入院プログラムによってプロナセリンが最も有効であることが客観的に示された一例、DS フォーラム 2011、神戸、9.18.2011. ポスター
- 117) 橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、山森英長、高橋秀俊、岩瀬真生、大河内智、数井裕光、斉藤治、巽雅彦、岩田仲生、尾崎紀夫、上島国利、功刀浩、武田雅俊、RELA 遺伝子は統合失調症とブレパルス抑制と関連する、第 34 回日本神経科学大会こころの脳科学、横浜、9.14-17(17), 2011. ポスター
- 118) 橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、山森英長、武田雅俊、ヒトにおける脳表現型の分子機構の解明：ヒト脳表現型コンソーシアムについて、包括脳ネットワーク 2011 年度夏のワークショップ、神戸、8.21-24(23), 2011. ポスター
- 119) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui H, Takeda M. The KCNH2 Gene Is Associated with Neurocognition and the Risk of Schizophrenia. 包括脳ネットワーク 2011 年度夏のワークショップ、神戸、8.21-24(23), 2011. ポスター
- 120) Branko Aleksic, Kushima I, Hashimoto R, Ohi K, Ikeda M, Yoshimura A, Nakamura Y, Ito Y, Okochi T, Fukuo Y, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Takeda M, Kaibuchi K, Iwata N, Ozaki N. Analysis of the VAV3 as new candidate gene for schizophrenia: evidences from voxel based morphometry and mutation analysis. 包括脳ネットワーク 2011 年度夏のワークショップ、神戸、8.21-24(23), 2011. ポスター
- 121) 水田直樹、安田由華、木田香織、橋本亮太、武田雅俊、重症神経性食思不振症女兒の構造化治療の一症例、第 109 回近畿精神神経学会、滋賀、8.6, 2011. 口頭
- 122) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Kamino K, Morihara T, Iwase M, Kazui K, Takeda M. KCNH2 Gene is associated with Neurocognition and Risk for Schizophrenia. 第 6 回日本統合失調症学会、札幌、7.18-19(18), 2011. ポスター
- 123) 安田由華、橋本亮太、山森英長、大井一高、福本素由己、毛利育子、谷池雅子、武田雅俊、統合失調症と広汎性発達障害におけるリンパ芽球を用いた mRNA 発現定量解析についての比較検討、第 6 回日本統合失調症学会、札幌、7.18-19(19), 2011. ポスター
- 124) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Iwase M, Kazui H, Fukumoto M, Yamamori H, Takeda M. The Chitinase 3-Like 1 gene is associated with the gene expression, the serum YKL-40 and the personality trait. 第 6 回日本統合失調症学会、札幌、7.18-19(18), 2011. ポスター
- 125) 新井誠、市川智恵、宮下光弘、新井麻友美、小幡奈々子、野原泉、杉岡大輝、岡崎祐士、吉川武男、有波忠雄、久島周、尾崎紀夫、福本素由己、橋本亮太、小池進介、滝沢龍、笠井清登、宮田敏男、湯澤公子、糸川昌成、統合失調症におけるカルボニルストレス回避機構の研究、第 6 回日本統合失調症学会、札幌、7.18-19(18), 2011. ポスター
- 126) 橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、山森英長、梅田知美、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症の中間表現型研究の最前線-The front line of intermediate phenotype study in schizophrenia-、第 33 回日本生物学的精神医学会、東京、5.21-22(22), 2011. シンポジウム、講演
- 127) 新井誠、市川智恵、宮下光弘、新井麻友美、小幡奈々子、野原泉、岡崎祐士、吉川武男、有波忠雄、久島周、尾崎紀夫、福本素由己、橋本亮太、小池進介、滝沢龍、笠井清登、宮田敏男、渡邊琢夫、山本博、糸川昌成、カルボニルストレス性統合失調症の病態に関する研究-Research on pathophysiology of the schizophrenia associated with idiopathic carbonyl stress-、第 33 回日本生物学的精神医学会、東京、5.21-22(22), 2011. シンポジウム、講演
- 128) 安田由華、橋本亮太、大井一高、福本素由己、梅田知美、山森英長、大河内智、岩瀬真生、数井裕光、岩田仲生、武田雅俊、遺伝子の遺伝子多型とシゾイドパーソナリティ特性の関連-Association of the